

授業科目 NO. 617 緩和ケア論

Palliative Care

授業の形態：講義

単位数（時間数）：1単位（15時間）

開講年次・学期：4年次・後期

必修・選択の別：選択

キーワード：緩和ケアの歴史と定義、緩和ケアの対象、チーム医療、コミュニケーション、意思決定支援、疼痛マネジメント

1 金沢医科大学看護学部の到達目標（全科目共通です）

- ① 豊かな人間性と倫理観
- ② **看護学の知識と技術、及び実践力**
- ③ 地域志向を視野に入れた専門性の獲得
- ④ 生涯学習能力
- ⑤ 国際的視野の獲得

2 学修目標

1) 一般目標（GIO）

緩和ケアの対象者とその家族に対する全人的な理解を深めると共に、緩和ケアにおける課題、協働と看護の役割、緩和ケア提供者に求められる能力を学ぶ。

2) 行動目標（SBO）※カッコ内の数字は上記の金沢医科大学看護学部の到達目標との関連を示す。

- (1) 緩和ケアの歴史、定義、対象となる人々の全人的苦痛、倫理的課題について説明できる。(2)
- (2) 緩和ケアにおける他職種との協働の必要性および看護の役割について説明できる。(2)
- (3) がん看護における緩和ケアおよび疼痛を中心とした症状マネジメントについて説明できる。(2)
- (4) 高齢者に対する緩和ケアの特徴について考察し、説明できる。(2)
- (5) 緩和ケアにおけるコミュニケーションで医療者に必要な能力を実施できる。(2)
- (6) 緩和ケア提供者のセルフケアの必要性を学び、自分の考えを述べる事ができる。(2)

3 学修内容

授業の内容については、授業計画に示す。

4 評価

評価項目	評価割合
定期試験成績	70%
実習成績	%
レポート	30%
授業態度	%
小テスト	%
その他	%
合計	100%

(特記事項) 定期試験は第1回、第5回～第7.5回の講義内容について実施する。

5 教育担当者

科目責任者：平松 知子

教授	平松 知子 (老年看護学)
准教授	北村 佳子 (成人看護学)
講師	直井 千津子 (老年看護学)
看護師	道淵 路子 (看護部)
看護師	上埜 千春 (看護部)

6 教科書

- 1) 宮下光令：ナーシング・グラフィカ成人看護学⑦緩和ケア第3版、メディカ出版、2021

7 推薦参考書

- 1) 恒藤暁・田村恵子編集：系統看護学講座別巻 緩和ケア第3版、医学書院、2020
- 2) 長江弘子：看護実践にいかすエンド・オブ・ライフケア第2版、日本看護協会出版会、2018

8 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

授業1コマにつき、事前学修・事後学修として計180分程度必要である。

- 1) これまでの授業で学んだ緩和ケアに関する内容について復習しておくこと。
- 2) ガイダンス時に配布する資料を基に、各授業内容および注意事項を確認しておくこと。
- 3) 授業中に指定した場合、授業後にレポートを提出すること。

9 課題（試験やレポート等）に関するフィードバック

提出された課題については、講義の中で取り上げ解説を行う。

10 履修上の注意事項

緩和ケアについて主体的に学修を進め、積極的に授業に参加してください。

11 オフィスアワー等

随時訪問可能。但し、事前に教員の都合を確認してください。

連絡先

平松知子・道渕 路子・上埜 千春 : hiramatu@kanazawa-med.ac.jp

北村 佳子 : kitamu@kanazawa-med.ac.jp

直井 千津子 : c-naoi@kanazawa-med.ac.jp

第4学年

緩和ケア論

学期	回数	開講日	時限	区分	講義・実習内容	レポート/小テスト等	講座・科目群名	教員名
後	1	10月30日(月)	3	講義	緩和ケアの歴史と現状		老年看護学	平松教授
後	2	11月06日(月)	3	講義	緩和ケア提供者に求められる能力①緩和ケアにおけるコミュニケーション	レポート課題	成人看護学	北村准教授
後	3	11月06日(月)	4	講義	緩和ケア提供者に求められる能力②緩和ケア提供者のセルフケア	レポート課題	成人看護学	北村准教授
後	4	11月13日(月)	3	講義	いまはこうする がん看護～患者の力を見出すケア～	レポート課題	看護部	道淵看護師,上埜看護師
後	5	11月13日(月)	4	講義	高齢者の緩和ケア		老年看護学	直井講師
後	6	11月20日(月)	3	講義	緩和ケアにおける協働と看護の役割		老年看護学	平松教授
後	7	11月27日(月)	3	講義	非がん患者の緩和ケア		老年看護学	平松教授
後	7.5	11月27日(月)	4	講義	緩和ケアの実践		老年看護学	平松教授